


健康登山64: 周辺の山31 (鈴鹿 三子山)

| | | | |
|--------|--|--|--|
| コース | 山科駅 鈴鹿峠路傍休憩所横駐車場 0.9km/29 0.7km/36 三子山3峰 0.6km/27 路傍休憩所 0.4km/11 鏡岩 0.4km/11 | 鉄塔分岐 0.3km/12 三子山1峰 0.2km/7 鈴鹿峠駐車場 山科駅 | 三子山1峰 0.9km/21 |
| 水平距離 | 4.4km | 断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km |  |
| 水平換算距離 | 7.7km | | |
| 累計高低差 | 登り430m、下り430m | | |
| 標準歩行時間 | 2:34 | | |
| 実績歩行時間 | 3:20 | | |



山行報告

山行日 2011・3・3(金) 天候 雪のち曇り 参加者 7名

山科駅7:30 土山IC経由鈴鹿峠駐車場8:30~8:49 鉄塔分岐9:18 三子山1峰9:48
 三子山2峰10:18 三子山3峰10:36~10:58 鉄塔分岐11:47 路傍休憩所(昼食)
 12:15~13:01 鈴鹿峠鏡岩13:09 鈴鹿峠駐車場13:32 土山IC経由山科駅14:40

記録

健康登山では初めてのマイカー山行、理由は遠隔地で交通の便が悪いからである。
 3月3日から4日は真冬に逆戻りという予報どおり、山科駅では小雪がちらついていた。新名神の土山ICで降り、国道1号線を鈴鹿峠へ向った。トンネル手前から右側の茶畑道に入り東海自然歩道の路傍休憩所横の駐車場に車を止めた。雪が降り続いていたので、帰路が気になったが最悪の場合はタイヤチェーンを使って脱出することにして三子山へ向って出発した。
 鉄塔のある分岐までは2月の健康登山で歩いた自然歩道と同じ道である。2月とは様変わりした雪道歩きでペースが遅くなる。分岐から北へ下る自然歩道と別れて三子山1峰を目指して東へ進んだ。1峰にはしめ縄が張られた磐座があり見に行った。また坂下集落から1峰に登る登山道があるが、この道は送電線と並行しているので巡視路だと思う。不注意でこの道に引き込まれたが、すぐに気付きコンパスで方向を確認して2峰へ向った。
 三子山は勾配約35%の二等辺三角形をした山が三つ等間隔で並んでいる。登山道は稜線についているので迷うことはない。それでもガスの切れ目から前方に2峰が見えると安心できる。
 登降を繰り返して3峰に着き、集合写真を撮影した。3峰は北西方面の樹木が防風林になり風当たりが緩和されている。ガスが薄くなり、間近に四方草山が、その左奥に仙ヶ岳の双耳峰が姿を現した、南には伊勢湾が遠望できた。下山時に樹間から北方の山が見えた、綿向山が雨乞岳だと思ふ。鈴鹿峠へ戻る稜線の風は冷たさを通り越して痛さを感じさせるものだった。
 鈴鹿峠の路傍休憩所に戻って昼食中に相談して、午後予定していた高畑山往復は天候と時間を考えて取り止め、鈴鹿峠と鏡岩を散策して終わることにした。
 鏡岩から関方面へ蛇行しながら下って行く国道1号線を見下ろす景色は圧巻だった。そして、この道を歩いた往時の旅人の姿を偲びながら鈴鹿峠を後にした。

自然歩道 (鈴鹿 三子山)



出発準備
路傍休憩所
8:42



三子山へ向う
8:53



鉄塔分岐の道標
9:14



1峰にある磐座
9:36



2峰へ向う
10:03



3峰で集合写真
10:40



3峰から
双耳峰の仙ヶ岳
10:53



戻り道
12:07



路傍休憩所
昼食
12:28



鏡岩から関方面
13:09

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：亀山駅～坂本棚田～桃林寺～椿大神社）

参考資料 ホームページ他より

三子山：鈴鹿山脈の南端、鈴鹿峠の東側に三子山があります。
形が良く同じような山が三つ並んでいる、これが三子山で山の名も山の形からきています。
三つの峰が等間隔に並び鈴鹿越えの旅人の目印になっていました。
三児山、三神山とも呼ばれていたそうです。

【展望】

南峰（峰 540m）、鉄塔脇から三子山の三つのピークと四方草山 667m
北東側、峰の左奥が臼杵ヶ岳、その奥が仙ヶ岳。
（南峰に磐座があります。片山神社の元宮？）

中峰（峰 556m）、展望なし。

北峰（峰 568m）、正面四方草山、遠方左手北方に綿向山、その右に雨乞岳。
頂上左奥(西側)の見晴らし台から。
左に高畑山と正面に第二名神、国道 1 号高架。

三子山の北の^{まうろ}笹路集落に三子神社があり、祭神は鈴鹿姫。

（鈴鹿姫 = 倭姫の説も）

坂下にある片山神社の元宮が三子山山頂に祀られていました。

現在、片山神社の主神は倭姫命。配神に「瀬緒津比売神」、「気吹戸主神」、
「速佐瀬良比売神」、の三神が祀られています。

【三神山】:

俗に三ッ子山という。「古名は片山とて三神垂の跡地なり」(勢国見聞集)。

次の四柱の神を「祓戸の四柱神」といい、「^{おおはらえのりど}大祓祝詞」に唱えられている。
片山神社には 1) 3) 4) の神が配神として祀られています。

- 1) ^{せおりつひめのかみ}瀬緒津比売神：速い瀬の神。罪や穢れを洗い流す神。（鈴鹿権現）
- 2) ^{はやあきつひめのかみ}(速開津比咩神)：河と海が合わさるところに坐し、罪や穢れを飲み込んでしまう。
- 3) ^{いぶきどぬしのかみ}気吹戸主神：「瀬緒津比売神」によって入江まで運ばれた罪や穢れを、
2)の神に飲み込まれたあと、海に風を起し、根の国(黄泉の国)に吹き払う役割を担う神。
- 4) ^{はやさすらいひめのかみ}速佐瀬良比売神：根の国の底に坐し、「気吹戸主神」が、根の国の底まで吹き払った罪や穢れを流失消滅させる神。

三子山の磐座は、鈴鹿川流域に定着した農耕民が水を司る神が降臨する場所だとして崇拜し信仰した原始土着信仰だとかの説もあります。

山頂は神聖な神域で山頂では儀礼、催事が盛んに行われている時代、1691年(元禄4)オランダ商館員ケンベルが江戸幕府に伺候する際、鈴鹿を通行、その日記に「幅の広い石段が近くの高い山に続いていた」とあるそうです。現在、石段は無くなっているが道は山に向かって直登し、東海自然歩道の一部になっている。

【大祓詞】

各々が犯した罪や穢れを祓うために唱える祝詞のりとで6月と12月の末に、半年間の罪や穢れを祓うもので、「大祓詞」を奏上して、身体や心に溜まった滞った汚穢おえをハラエとミソギでぬぐい去ります。神社などで行われています。

鈴鹿山：京都祇園祭の山の一つ「鈴鹿山」は、鈴鹿山で旅人を困らせた悪鬼を退治した鈴鹿権現の伝説に由来しています。

御神体は、この「山の神」鈴鹿権現せきりつひめのかみ(瀬緒津比売神)です。

能面(神面)をつけ、金の立烏帽子を被り、左手に大薙刀を立てて持ち、腰に鍔太刀、右手に中啓ちゅうけい(末広)を持ちます。背景の山(山洞)に悪鬼の首の象徴として赤熊(じゃぐま)のかしらかしらが置かれています。

山の松に吊るされている絵馬は「盗難除けのお守り」として巡行後に、町内の人に授与されます。

*中啓=扇子の一種、折りたたむと銀杏いちじょうの葉の様に上端がひろがる。

【立烏帽子と坂上田村麻呂】

昔鈴鹿峠(山)に「立烏帽子」という絶世美人の鬼女がいて、変化自在の神通力を持ち、多くの荒くれ男たちを手下に持ち、美人に化けると峠の「鏡岩」の前に立ち化粧をし、旅人を誑たぶらかして、襲うので、朝廷(平城天皇)の命を受けた坂上田村麻呂が征伐に来た。

互いに奮戦し勝負はなかなかつかなかつたが、田村麻呂が京都清水観音に祈願すると鬼女は妖力を失い降伏した。大同2年(802)2月18日です。

その後「立烏帽子」は安らかな人間に戻って、田村麻呂の妻となり「鈴鹿御前」と称されるようになったという。

峠に田村神社旧蹟があり、土山町に田村神社があります。2/18例祭で賑わう。

鈴鹿流薙刀：片山神社境内に「鈴鹿流薙刀術発祥の地」の石碑があります。

「鈴鹿御前」又は祇園祭鈴鹿山の御神体「瀬緒津比売」に因むのか興味が注がれます。

鈴鹿峠の茶店：峠に茶店が6軒もあったといいます。古ぼけた石仏が往時を偲ばせます。

高畑山：標高773.3m二等三角点

鈴鹿峠から南西に続く稜線上にあるピーク。

鈴鹿北部の山々に比べ標高は低いが山頂からの展望は引けをとらない。

旧鈴鹿峠から高畑山への登山道から脇道に天然記念物の「鈴鹿山の鏡岩」があります。

高畑山の名物「ナイフリッジ」という痩せ尾根があり、切れ落ちた砂礫地で、ザレ場となっています。滑らないよう慎重に通過します。

新旧二つのコースにロープがあり左のコースが無難だそうです。

【展望】360度

北東：綿向山、雨乞山、御在所岳、鎌ヶ岳、仙ヶ岳、野登山、臼杵ヶ岳、

南：大峰山系、局ヶ峰、曾爾高原、台高山系。

西：比良蓬莱山。比叡山。

東：明星ヶ岳やその周辺の山（錫丈ヶ岳、経ヶ峰）

南西：溝干山から那須ヶ原山への稜線。

みぞほせやま
溝干山から坂下峠を経て鈴鹿峠まで周回コースも可能。

高畑山から溝干山まで尾根道は歩きやすい行程25～30分。

尾根道からびわ湖が見える。伊勢湾もみえます。

溝干山山頂は展望なし。溝干山から坂下峠までは100mの急な下り。

坂下峠から林道歩きになる。周回約4時間（歩行）